

地域医療連携推進法人制度を活用した 地域医療構想の推進

地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネット
代表理事 栗谷義樹

統合・再編について

山形県立日本海病院
(528床、25科、医師72人)



両病院の課題

- 1 山形県立日本海病院の赤字経営**
 - ・平成5年開院以来、赤字。不良債務の発生
 - ・施設整備に伴う元利償還(年約20億円)の負担
- 2 酒田病院の老朽化**
 - ・設備の老朽化(S44建設以来、約40年ほど経過)
 - ・早急な建替えが必要。400床のままでは改築は難しい。それ以下だと経営が厳しい。
- 3 診療機能の重複**
 - ・診療科の重複(15科重複、ライバル関係、位置関係は直線距離2Km)
 - ・医師の分散配置(慢性的な過重労働、医師不足)

二次医療圏、北庄内地域の課題

- 1 医療制度改革への対応**
 - ・過剰な一般病床、不足する療養病床
- 2 高度・専門医療の充実**
 - ・がん死亡率が他地域よりも高い
- 3 三次救急医療機関(救命救急センター)がない。**

酒田市立酒田病院
(400床、15科、医師40人)



平成20年4月 再編・統合

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構が発足

課題への取組み

- 1 病院機能の分化・集約**
 - ・日本海病院は急性期中核病院(増築・増床)、救命救急センター設置
 - ・酒田病院は療養・回復期病院として、病床を削減し全面改修
 - ・病床数の調整(日本海+118床、酒田-286床、合計:168床削減)
→ 平均在院日数: 約6日短縮、手術件数: 年間1,000件増加
- 2 診療科の再編、医師の集約**
 - ・急性期機能集約のため、増築工事を実施。段階的に市立病院から診療科を移行、再編した。
 - ・診療科の再編、移行にあわせ医師を日本海へ集約
→ 両病院の医師数: 112人(H19) → 158人(R1) 46人増加
- 3 その他の取組み**
 - ・ICTネットワーク「ちようかいネット」にて診療録を全開示(地域連携)
 - ・スタッフ職員制度の創設等、働きやすい職場環境づくり
 - ・独法ならではのスピード感のある意志決定による運営
→ 例:職員採用、高度医療機器の導入、職員宿舎・保育施設の拡充

日本海総合病院
(634床、27科、医師154人)



酒田リハビリテーション病院
(114床、2科、医師4人)



独法の医療提供体制 (H30.4～)

酒田市休日診療所(医師会に業務委託)



飛島診療所



出張診療
救急対応

日本海総合病院(高度急性期医療)



遠隔診療

松山診療所



1次診療(内科、外科)
訪問診療

松山地域診療圏

地見興屋
診療所

日本海八幡クリニック



1次診療(内科、外科、整形外科、
リハビリテーション科)
訪問診療・訪問看護

八幡地域診療圏

訪問看護

日本海酒田リハビリテーション病院
(回復期・慢性期医療)



青沢診療所

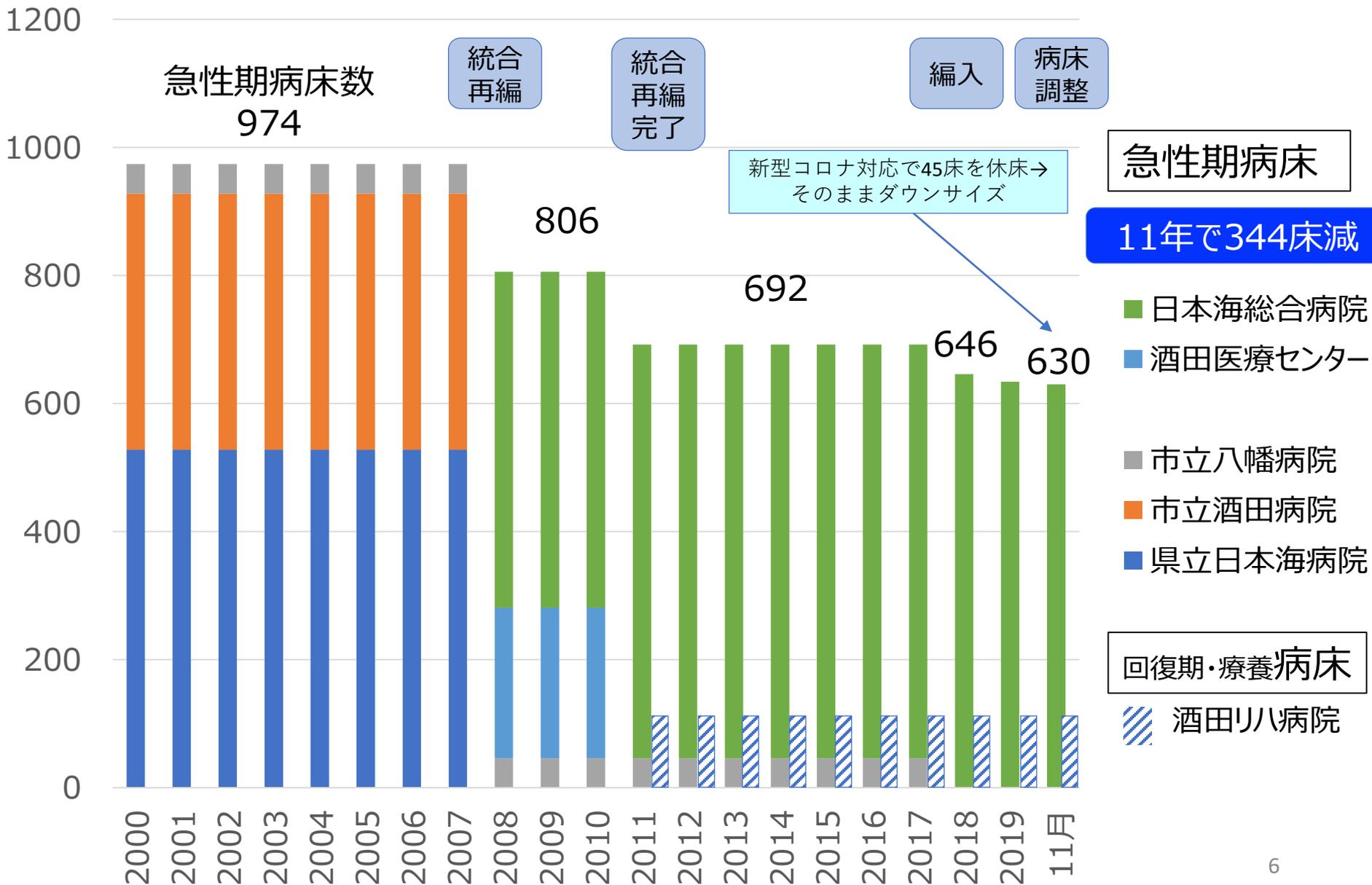
升田診療所

日本海総合病院財務指標比較

	平成19年度	令和2年度	比較	全国平均値H27 (第3期中期計画目標値)
病床数(稼動病床数)	528(床)	626(床)	98(床)	
営業収支比率	91.7%	106.1%	14.4P	98.5%以上 (100%以上)
経常収支比率	97.5%	106.8%	9.3P	103.0%以上 (100%以上)
入院単価	39,373(円/日)	76,194(円/日)	36,821(円/日)	(62,000円/日以上)
外来単価	8,957(円/日)	19,136(円/日)	10,179(円/日)	(13,000円/日以上)
人件費率	59.5%	43.4%	△16.1P	46.6%(46.6%)
材料費率	28.2%	28.7%	0.5P	27.7%(27.7%)
不良債務	25(億円)	0	△25(億円)	0
減価償却費	3.37(億円)	15.69(億円)	12.32(億円)	
病床利用率	85.4%	73.7%	△11.7P	83.2%(80%以上)
病床回転率	176.3%	262.2%	85.9P	
平均在院日数	17.3(日)	11.6(日)	△5.7(日)	(12.0日以内)

※1 全国平均値H27は、H27公立病院500床以上の黒字病院の数値
 ※2 ()は、第3期中期計画目標値 R2年度は41床を新型コロナ病床へ転用

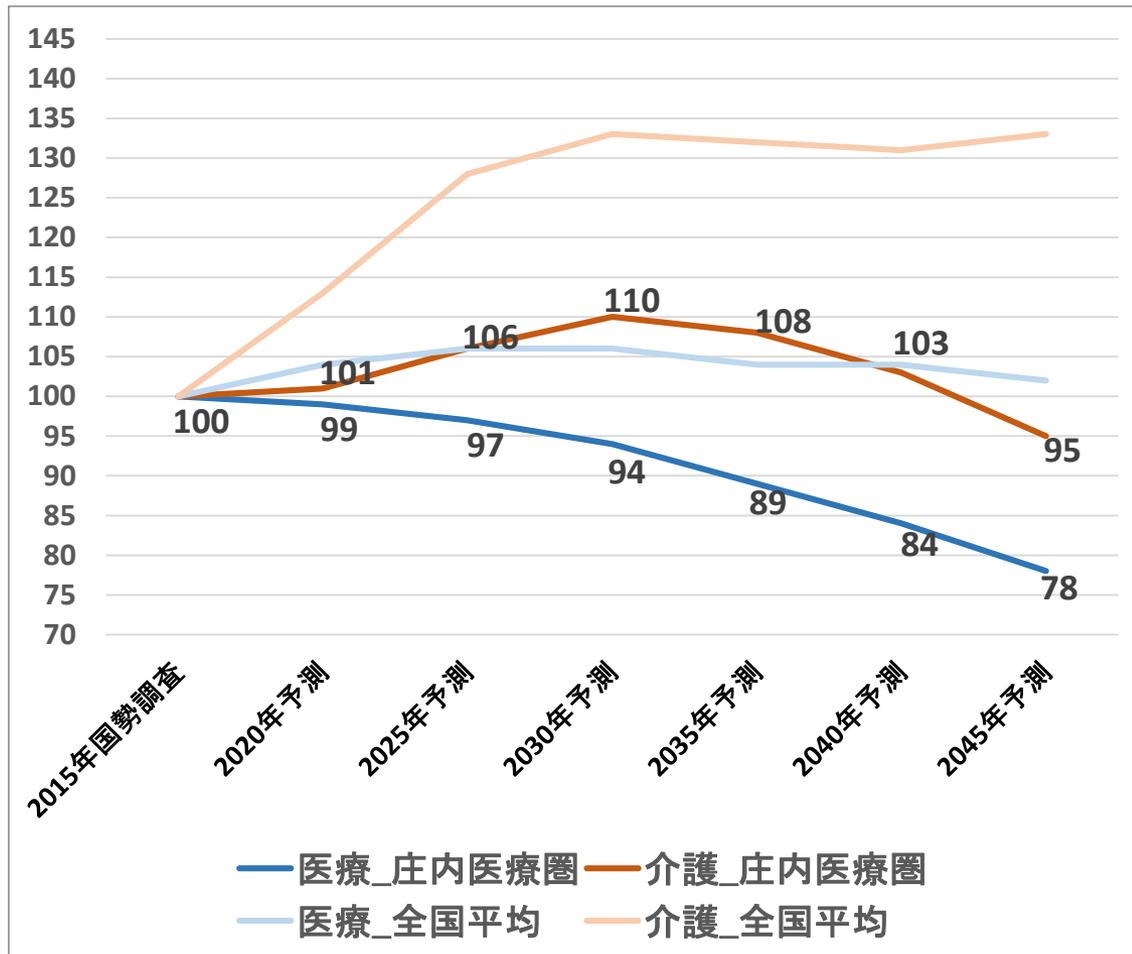
当機構における統合・再編・編入による病床数変化



【庄内 2 次医療圏】病床種類別病床数

病床種類別の病床数		病床数	人口10万人あたり 病床数	
			庄内医療圏	全国平均
一般診療所病床		156	55.81	73.57
病院病床(全区分計)		3,146	1,126	1,201
病床分類	一般病床	1,748	607.16	697.23
	精神病床	650	232.56	254.42
	療養病床	744	266.19	228.08

【庄内医療圏】医療介護需要予測指数 (2015年実績 = 100)



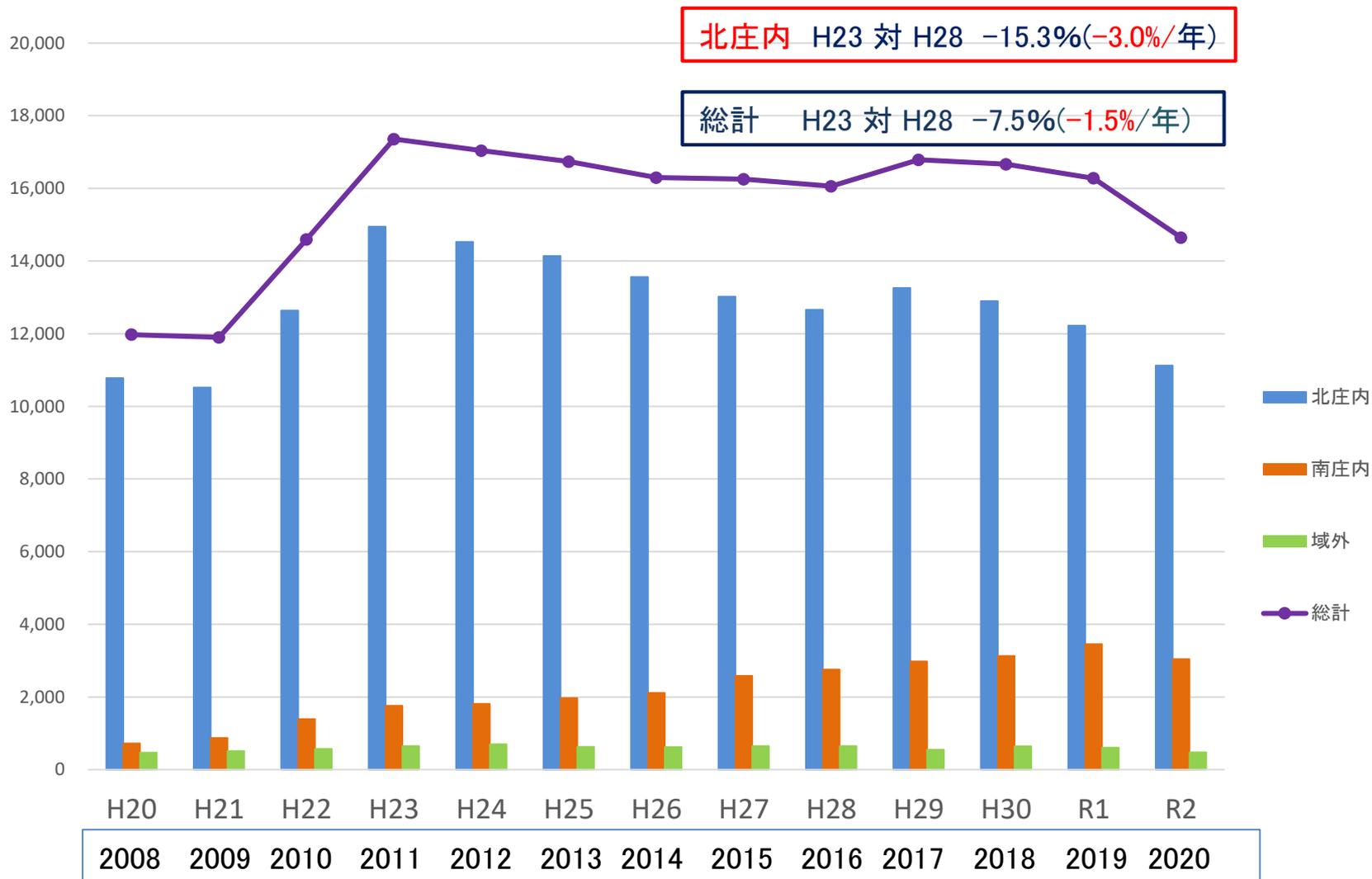
- 後期高齢者人口は、2030年が最大、2015年比112%
- 医療需要は2015年には既に減少を始めており、介護についても2030年にピークを迎えるが、2015年比108%であり、大きな需要増は見込めない
- 需要は現在の利用率を元に推定、自己負担額増加などの利用率低下策が強化される可能性あり、今後は推計値より下回る可能性も

新入院患者(日本海総合病院)

(人)

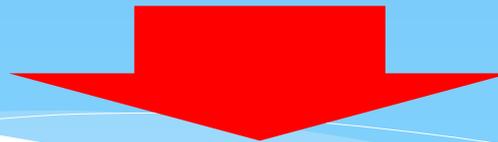
北庄内の人口減少率
 1.0%/年(5.1%/5年)
 南庄内の人口減少率
 1.0%/年(4.9%/5年)

新入院患者数



地域医療連携に向け院長同志議論

- (1) 病院の経営を**病院単体で考える時代は終わり**
- (2) 非営利を厳正化して、地域内独占をある程度許容も
- (3) 運営主体がそれぞれ独立したままで機能分担しようとしても、経営上の利害がぶつかるためうまくいかない
- (4) 地域の中で複数の病院がグループ化し、病床や診療科の設定、医療機器設置、共同購入などの効率化
- (5) 病院単独ではなく地域で必要な医療費用を効率化できる仕組みが必要⇒**地域での医療介護費用の連結決算の必要性**
- (6) 医師不足、看護師不足、医療技師不足への具体的な対応



◎ **地域で消耗戦を際限なく続けることを終わりに**
・・・**時間はあまり残されていない**

法人設立までの経過③

STEP3

H28.9.13～

■ 設立協議会の開催

(代表者出席、以降5回開催)

□ 参加：病院機構、医師会、健友会、宏友会、光風会の5法人

(第5回から) 歯科医師会、薬剤師会、山容会、かたばみ会

オブザーバー：厚労省医療経営支援課(第1回のみ)、

山形県、酒田市、近隣の医療機関病院長

□ 内容：①新法人設立へ向けた事項の協議、

決定(議決権、定款等決定)

②前倒し事業の実施(維持透析機能の集約化、人事交流)

③基本合意書の締結(酒田市内9法人間)

日本海ヘルスケアネットイメージ

酒田地区医師会 十全堂

日本海総合病院への
医師派遣等



山形県・酒田市 病院機構

日本海総合病院等
運営



酒田地区 歯科医師会

訪問歯科診療等運営



健友会

本間病院、
介護老健ひだまり等
運営



山容会

山容病院、
グループホーム等
運営



宏友会

上田診療所、
介護老健うらら等
運営



正覚会

特養ライフケア
黒森等運営



かたばみ会

特養かたばみ荘等
運営



酒田地区 薬剤師会

休日診療所への
派遣等



光風会

介護老健シェ・モワ等
運営



地域医療連携推進法人

日本海ヘルスケアネット

理念

医療、介護、福祉の切れ目のないサー
ビスを、将来にわたって安定的に提供

連携事業の状況①

項目	業務内容、課題等																															
<p>人事交流／派遣体制の整備 ／職員の共同研修</p>	<p style="text-align: right;">令和2年10月</p> <p>人事交流</p> <table border="1" data-bbox="705 339 1781 772"> <thead> <tr> <th>出向元</th> <th>出向先</th> <th>職種</th> <th>人数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健友会</td> <td>病院機構</td> <td rowspan="3">医師</td> <td>3名</td> <td>平日診療</td> </tr> <tr> <td>病院機構</td> <td>健友会</td> <td>3名</td> <td>水土日の宿日直</td> </tr> <tr> <td>病院機構</td> <td>光風会</td> <td>1名</td> <td>産業医</td> </tr> <tr> <td>病院機構</td> <td>健友会</td> <td rowspan="3">看護師</td> <td>3名</td> <td>透析室</td> </tr> <tr> <td>病院機構</td> <td>宏友会</td> <td>3名</td> <td>診療所、老健</td> </tr> <tr> <td>宏友会</td> <td>病院機構</td> <td>1名</td> <td>訪問看護</td> </tr> </tbody> </table> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各参加法人の採用計画、不足する職種等の情報共有【H30.6～実施】 ・退職予定者へ参加法人の職員募集状況を情報提供【H30.7～実施】 ・定年を迎える医師の就労機会の確保 ・職員研修の共同実施(研修会への参加の呼びかけを相互に実施) 	出向元	出向先	職種	人数	備考	健友会	病院機構	医師	3名	平日診療	病院機構	健友会	3名	水土日の宿日直	病院機構	光風会	1名	産業医	病院機構	健友会	看護師	3名	透析室	病院機構	宏友会	3名	診療所、老健	宏友会	病院機構	1名	訪問看護
	出向元	出向先	職種	人数	備考																											
健友会	病院機構	医師	3名	平日診療																												
病院機構	健友会		3名	水土日の宿日直																												
病院機構	光風会		1名	産業医																												
病院機構	健友会	看護師	3名	透析室																												
病院機構	宏友会		3名	診療所、老健																												
宏友会	病院機構		1名	訪問看護																												
<p>維持透析機能の重点、集約化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本海HPの慢性維持透析患者を本間HPへ【H29.6～実施】 ・患者増に対応する施設・機器の整備 ・看護師の増員(病院機構から出向) ・送迎バスの増便 ・本間HPでR元年12月から20床増床 																															

出向職員人件費(令和2年度実績)

(単位:円)

	合 計 (6名)		
	出向先	出向元 (山形県・酒田市病院機構)	差額
給料額(年額)	23,564,700	28,672,125	5,107,425
通勤手当	453,324	469,500	16,176
超過勤務手当	74,108	93,200	19,092
夜間看護等業務手当	980,033	543,485	-436,548
特殊勤務手当その他手当	238,036	1,032,130	794,094
賞与額(業績手当含む)	6,228,420	11,538,411	5,309,991
共済費負担金	4,795,663	6,929,515	2,133,852
雇用保険負担分	188,261	240,259	51,998
合 計	36,522,545	49,518,625	12,996,080

- ・出向元は、出向元の給与制度により計算した額を本人に支給する。
- ・出向先は、出向先の給与制度で計算した額(上記額を上限とする)を出向元に納付する。

応援医師の状況について①

病院機構が受けている応援医師の状況（庄内地域のみ）

派遣先	派遣元	医師数	診療科	業務内容	日数
日本海総合病院	庄内病院	2人	循環器内科	診療対応	週1回程度
	庄内病院	1人	脳神経外科	緊急診療対応	年4回
	本間病院	2人	外科	手術応援	週3回程度
	本間病院	1人	循環器内科	診療業務	週1回程度
	遊佐病院	1人	麻酔科	手術応援	月3回程度
	開業医ほか	3人	眼科	救急診療対応	週1回程度
	開業医ほか	1人	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	診療業務	月1回程度
	開業医ほか	2人	消化器内科	診療業務	週3回程度
	開業医ほか	1人	循環器内科	診療業務	月2回程度
	開業医ほか	1人	整形外科	診療業務	月3回程度
	開業医ほか	1人	外科	診療業務	月1回程度
酒田リハ病院	開業医ほか	1人	麻酔科	手術応援	週3回程度
	開業医ほか	1人		日直業務	月2回程度
	開業医ほか	11人		宿直業務	週2回程度
合 計		29人			

応援医師の状況について②

病院機構が行っている応援医師の状況（庄内地域のみ）

派遣先	派遣元	医師数	診療科	業務内容	日数
本間病院	日本海総合病院	1人		日直	月2回程度
本間病院		1人		日宿直	月2回程度
本間病院		1人		宿直	週1回程度
本間病院		1人	整形外科	診療業務	月2回程度
鶴岡市立庄内病院		1人	耳鼻咽喉科	診察業務	週1回程度
鶴岡市立庄内病院		1人	心臓血管外科	診療業務	週1回程度
鶴岡市立庄内病院		1人	呼吸器外科	診療業務	週1回程度
山容病院		1人	精神科	当直業務(-22:00まで)	月2回程度
山容病院		1人	精神科	外来業務	週1回程度
三川病院		1人	精神科	当直業務	月3回程度
検診センター		1人	内科	内科検診	月1回程度
検診センター		1人	産婦人科	子宮頸がん検診	週1回程度
検診センター		1人	外科	乳がん検診	週1回程度
開業医ほか		1人	外科	診療業務	月1回程度
開業医ほか		1人	消化器内科	診療業務	月1回程度
障がい者支援施設		1人	精神科	診療業務	月2回程度
障がい児入所施設		1人	精神科	診療業務	月1回程度
合計		17人			

病院の収益改善

(本間病院作成資料)

【収入面】

医療連携推進法人内での機能分担が推進

★慢性維持透析の移行

★急性期治療を終えた心不全患者転院

【費用面】

当直医の支援(毎月第2・3土日当直)

★フライトドクターの経費と派遣業者への費用が発生していた

(年間約200万円削減)

設備投資で有利だった点

(本間病院作成資料)

- 2019年度に、門前診療所を外来患者の減少により、透析室拡大(49台→70台)へ用途変更を行った。
- 2億円の設備投資が必要になり、銀行交渉を行った。
- 銀行より「透析患者の安定供給があるのか」等持続可能な設備投資なのか質問が多数だされた
- 連携推進法人内の患者移行で安定的な確保ができることを伝え理解を得られ、融資が実行された。

連携事業の状況②

項目	業務内容、課題等
診療機能の重点、集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期機能の集約化(救急、手術部門等の調整)【H29.3～検討開始】 <ul style="list-style-type: none"> → 日本海総合病院に集約する方向性を確認 → 高額医療機器等の更新と連動した考え方が必要
地域フォーミュラリ	<p>○薬剤の有効性、安全性、経済性を検討し、地域での推奨薬を選定する。 【H30.11～実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤師会の地域フォーミュラリ検討会で基礎データを収集・分析 ・日本海ヘルスケアネットの地域フォーミュラリ作成運営委員会と協議会での検討・議論を経て、最終的に理事会で議決承認。 ・現在8薬剤について実施中 <ul style="list-style-type: none"> ①PPI ②α-GI ③ARB ④スタチン ⑤バイオシミラー ⑥ビスホスホネート ⑦抗ヒスタミン薬 ⑧抗インフルエンザ薬 ・当面、8薬剤の地域への周知徹底と効果の検証に取り組む。
訪問看護ステーションの再編・統合	<p>○4参加法人が実施している訪問看護ステーションを再編統合することで、機能の充実、効率化及び経営の安定化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宏友会上田診療所の訪問看護を病院機構八幡クリニックに統合 (R元年6月～) ・医師会ステーションを健友会ステーションと統合(R2年4月～)

地域フォーミュラリ推奨薬

(2021.6月)

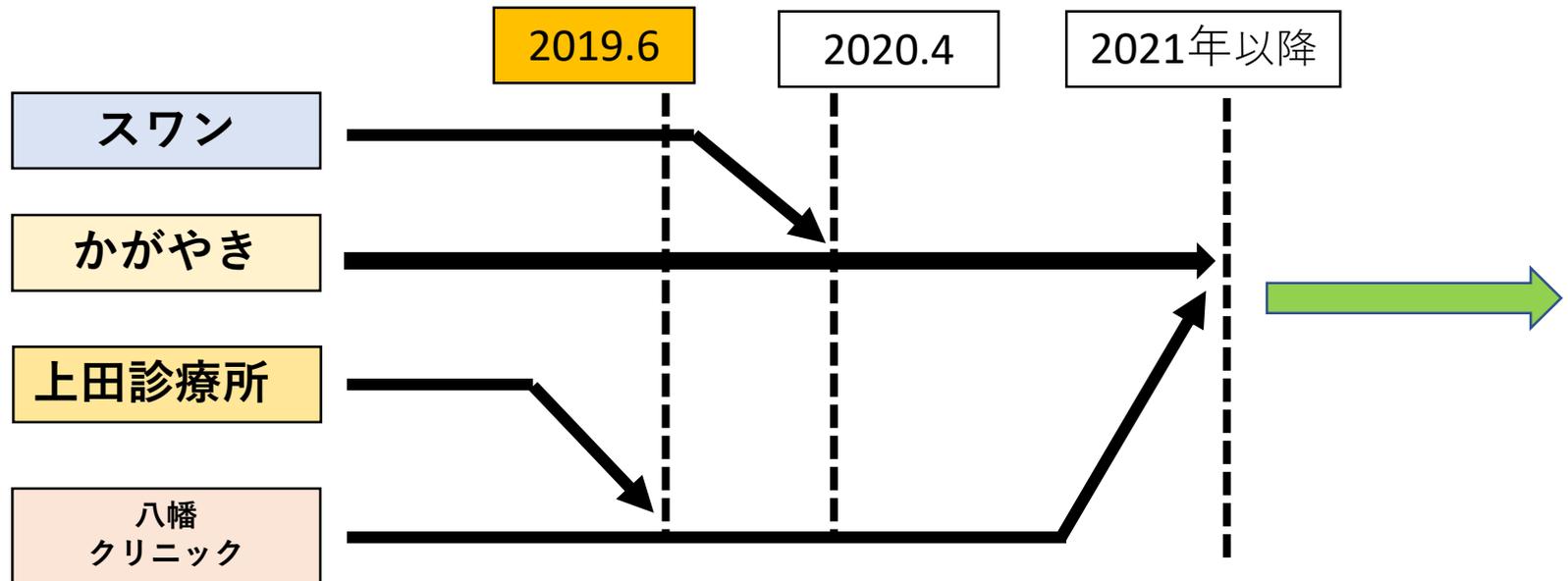
1	PPI	ランソプラゾール	(15mg・30mg)
		ラベプラゾール	(10mg・20mg)
		オメプラゾール	(10mg・20mg)
2	αグルコシターゼ阻害剤	ボグリボース	(0.2mg・0.3mg)
		ミグリトール	(25mg・50mg・75mg)
3	ARB	テルミサルタン	第一推奨
		オルメサルタン	第二推奨
		カンデサルタン	第三推奨
4	スタチン	ピタバスタチン	(脂溶性)
		ロスバスタチン	(水溶性)
5	バイオシミラー	インフリキシマブ	(100mg)
6	ビスホスホネート製剤	アレンドロン酸Na	(35mg) 第一推奨
		リセドロロン酸Na	(17.5mg・75mg) 第二推奨
7	抗インフルエンザ薬	オセルタミビル	(内服) 第一推奨
		ゾフルーザ	(内服) 第二推奨
		リレンザ	吸入薬
	(成人の治療に限る)	イナビル	
	ラピアクタ	注射薬	
8	抗ヒスタミン薬	ロラタジン	(10mg)
	(アレルギー性鼻炎に限る)	フェキソフェナジン	(60mg)
9	神経障害性疼痛薬	ブレガバリン	
10	ヘルペスウイルス感染症	バラシクロビル	腎機能やアドヒアランスに問題がある場合にはアメナリーフとしそれ以外はバラシクロビルを推奨する。
		アメナリーフ	
11	ARB + カルシウム拮抗剤	カムシア	
		テラムロ	

6 製剤の地域フォーミュラリ

: 人口比率による年間節約効果の単純推計

	2019年	2020年	削減額
41調剤薬局の薬剤費合計	367,106,003	321,267,327	58,424,844円
北庄内での削減額 (X2) (院内処方率 約50%)			116,849,688円
人口比率から単純試算 国の年間節約効果	日本 1.265億人 北庄内 13万5千人 (1/934)		1,091億円

訪問看護ステーションの再編



1、上田診療所⇒八幡クリニック

2019年4月～6月 患者説明、資料引き継ぎ、出向契約、車両契約、システム移管、
6月～宏友会から八幡に職員1名出向、患者移管

2、スワンとかがやきの統合

2020年4月にスワンをかがやきに統合

4月24日、第1回調整会議

- ・統合スケジュール
- ・継承施設
- ・職員移管にかかる調整(給与、退職引当金)
- ・継承財産(車両等)
- ・システム統合
- ・その他

3、八幡クリニックの訪問看護ステーションについては病院機構の次期中期目標、中期計画策定において、「かがやき」との統合を含め在り方検討(今年度中)

A 北庄内訪問看護ステーション（R2.10.1 9事業所）

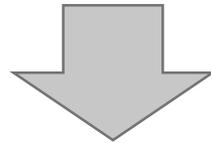
事業所名	看護師数	ケアマネ数	患者数	その他（理学療法士など）	機能強化型
訪問看護ステーション「かがやき」				R2年4月スワンと統合	
訪問看護ステーションスワン	13	0	190	理学療法士(2) ケアマネは本間病院居宅支援事業所	1
訪問看護すずらん	5	3	30		
コンフォート櫛の木	6	0	30	施設内訪問のみ	
訪問看護ステーションあらた	4	0	15	言語聴覚士(1)	
訪問看護ステーションらいふ	5	0	90	理学療法士(2)・言語聴覚士(1)	
訪問看護ずっと	4	0	15		
訪問看護ステーションやわた	6	0	59	R元年6月公友会訪問看護Stと統合	
医療法人徳洲会訪問看護ステーションひまわり	5	0	57	余目	2
訪問看護ステーション ゆざ	4	0	30	遊佐	

連携事業の状況③

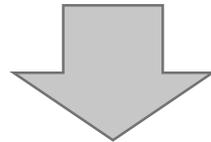
項目	業務内容、課題等
病床調整	<ul style="list-style-type: none"> ○連携推進法人内の病院間における病床の融通(地域医療構想推進) ・日本海総合病院の休床中の急性期病床4床を本間病院に移譲(回復期病床) (R元年12月～)
医療・介護の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・本地区における地域包括ケアのあり方の検討・協議【H29.7～検討】 ・人材確保、人事交流、介護職の教育体制の共有、交換研修の実施を検討 ・退院支援、退院調整ルール作成検討
口腔ケアの連携	<ul style="list-style-type: none"> ○病院、老人保健施設、老人介護施設、在宅等の口腔ケアの共通シートを作成し、病院、施設間の多職種で共有し、ケアプランに反映できる仕組みをつくる。
複合型介護施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○山容会が計画する複合型介護施設への支援 ・連携推進法人の理事会での調整・助言を踏まえ山容会が設置を申請。 ・補助金決定し、現在建設中。
地域での財務連結	<ul style="list-style-type: none"> ○連携推進法人全体の「数値」を「見える化」することで、地域への波及効果の検証や具体的な課題の抽出等に活用。 ・外部コンサルに委託(R元年9月～)
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・共通ロゴマーク作成・表示【H29.4～実施】 ・ホームページの開設【H30年度～実施】 ・患者・住民向け講演会の開催【H31年4月実施】
情報共有	<ul style="list-style-type: none"> 連携推進法人内の情報共有の仕組みを整備。 ・理事会、社員総会、評議会、ワーキングの状況等の資料 ・病院・施設等の空床情報 ・災害時の情報共有等

地域での財務連結 目的

- 日本海ヘルスケアネット全体の「数値」が「見える化」できていない



- 人事交流（医師、看護師等）、地域フォーミュラ策定、業務調整（透析、検査機能重点・集約化等）が進捗中



- 「数値」の把握・検証により、具体的な課題を抽出し、日本海ヘルスケアネットの取り組みのブラッシュアップを図る
- 地域への波及効果を更に追求することで存在意義を明確化する

野村HS & A12月参考資料より引用

地域での財務連結 7法人決算集計より

野村HS & A12月参考資料より引用

2019.12月調査時点

<損益計算書>

- 7法人全体でみると、過去3年間は増収傾向 (法人設立2018.4)
 - 2016年度収益は全体で280.2億円、2018年度収益は同304.2億円
 - 全体で24.9億円 (+8.5%)、病院機構は20.5億円 (+10.2%) と最も高い
- **2019年3月期の売上高営業利益率は全体で+2.5%。**
 - 正覚会が4.4%が最も高く (病院機構は2.8%)、山容会と宏友会は赤字
- **医業収益は22.8億円の増収だが、介護保険事業の収益は0.6億円と伸び悩んでいる**
- **7法人全体でみると、過去3年間の人件費は増加傾向**
 - 2016年度は142.0億円、2018年度は151.0億円で6.3%の増加。
- **7法人全体の売上高人件費率は49.7%。**
 - 宏友会が70.6%と最も高く、病院機構が43.6%と最も低い
- **経費内訳をみると、委託料 (20.7億円) 以外では、水道光熱費 (6.3億円)、修繕費 (3.4億円)、教育研修費 (1.15億円) の支出が多い**

<貸借対照表>

- 7法人全体でみると、過去3年間で資金超過に
 - 2016年度は7法人全体で2.47億円の資金不足、2018年度は同57.6億円の資金超過
- **7法人全体の自己資本比率が過去3年間で50.6%から53.6%へ上昇**

連携事業の状況④

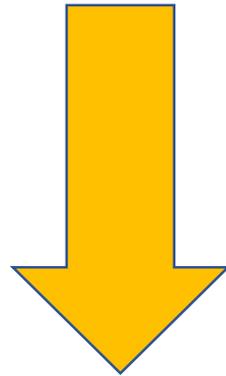
項目	業務内容、課題等
検査機能の重点、集約化	<p>○経費の削減を図るため日本海総合病院に検査機能を集約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター化と部門システムの連携等を含む運用方法の検討【H29.3～検討開始】 ・日本海総合病院検査部 ISO15189 取得【H30.8】 ・費用削減効果の試算 <p>→現状では他病院、診療所のメリットが見込めないため中断</p>
電子カルテ等の共有	<p>○電子カルテの共有化に向けた検討・協議【H29.3～検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院機構以外の病院、診療所のコストが増加、患者IDの共通化、会計システムとの連動などの課題あり。 <p>→本間病院の電子カルテの更新時期を踏まえ継続協議。</p>
高額医療機器（CT、MRI等）の共同利用	<p>○高額医療機器の二重投資回避による経費の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高額医療機器一覧の作成、費用、収支等の把握【H30.5～実施】 ・そのためには、機能分担の明確化が必要（手術、検査等の機能集約化）
薬品・診療材料・委託業務等の共同交渉	<p>○スケールメリットと二重投資回避による経費の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加法人の購入単価の比較等を実施 <p>→現在のところ経済的メリットが見込めないため中断</p>
出資・基金の拠出	<p>○連携推進法人及び参加法人が持続可能な経営を行うため必要な資金の調達</p> <p>→地方独立行政法人、社会福祉法人は出資不可。法整備が必要</p>
敷地内薬局の創設	<p>○日本海HCNの事業として地区薬剤師会、会営薬局への委託</p>

地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 主なシステム導入経費・維持費

システム名	導入経費	維持費	備考
電子カルテ（R1更新）	■■■■円	■■■■円/年	【更新費用内訳】 システム+サーバ等 ■■■■円 PC端末 ■■■■円
院内ネットワーク（H28更新）	■■■■円	■■■■円/年	
ちょうかいネット	■■■■円 （日本海総合病院分）	■■■■円/年 （日本海総合病院分）	
お薬情報共有システム	■■■■円	■■■■円/年	庄内医療情報ネットワーク協議会で支出
医歩データ二次利用ツール	—	■■■■円/年	お薬情報共有システムのデータ二次利用
AI問診	■■■■円 （iPad購入費11台）	■■■■円/年	
12誘導心電図伝送システム	広域行政組合にて導入	■■■■円/年 （※システム利用料）	
オクレンジャー	■■■■円	■■■■円/年 （ID数：1,522人）	ID数（人数）による料金設定
オンライン資格確認	■■■■円	—	システム改修+PC22台+カードリーダー19台
秋田・山形つばさネット	—	—	ID-Link利用により、導入経費及び維持費なし
計	■■■■円	■■■■円/年	

地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネット の今後の事業展開

◎ 持続可能な経営（地域のSDGs）



◎ 「**非営利医療介護複合事業体**」の創設